

超遠心機（ベックマン Optima XE-90)使用に当たっての心得

1. 超遠心機の保守管理は、植物ストレス学グループで行いますが、利用者の不適切な使用により生じた故障の修理は本人負担とします。
2. 使用される場合は、あらかじめ以下の予約表に記入をお願い致します。利用機種名 XE-90 と記載のこと。(使用前に管理責任者へ事前に連絡してください)
<http://150.46.245.10/cgi-bin/slg/yoyaku8/slg.cgi>
3. 研究室施設時間帯（夜間休日等）の利用は基本的にはできません。
4. 使用後は使用簿へ使用記録をご記入下さい。
5. ローター、バケットは Optima L100K と共通で使用できます。Optima L100K の利用者心得を確認していただき、その他注意事項を守って下さい。
6. 共通消耗品（オイル、ローター用パッキング等）の費用は、利用時間に従って、利用者負担でお願い致します。
7. 遠心チューブ等の消耗品は利用者でご負担下さい。
8. 共通の小道具（バケットネジまわし、ドライバー、グリース等）は使用后所定の場所（超遠心機後ろの棚）に戻しておいて下さい。
9. 初心者が利用する際は、事前に管理責任者の説明を受けるようにして下さい(十分に習熟するまでは指導教員等の立会いのもとで使用することが望ましい)。
10. エラー表示や異音などがあった場合は、速やかに管理責任者に連絡をして下さい（エラー表示はそのままにしておいて、消さないでください）。

以上、よろしくお願い致します。

超遠心機管理責任者

植物ストレス学グループ 三谷、小西

追記：その他の注意事項 — Optima L100K と共通 —

- a) ローターやバケットは周りにぶついたり、落としたりしないよう扱いには注意してください。また、ローター底部には認識用シールが張ってありますので、そのまま引きずったりしないでください。
- b) 使用前にローターやバケット内部に内容物がないことを必ず確認してください。必要に応じて、Oリング部へ真空グリース、ネジ込み部分に SPINKOTE を塗布（ただし極薄く、塗りすぎ注意）してください。Oリングの劣化も注意してください。
- c) チューブ・バケットのバランスは、しっかりとってください（最低でも 0.1g 以下で）。バケットは毎回 6 本すべて（空の場合でも）使用してください。特に、スイングローターの場合では試料液はチューブの上部まで、逆にアングルローターでは試料を入れすぎないでください（分離中の液面は鉛直になります）。各社遠心チューブの耐久性能を必ず確認してください。
- d) 重いローターをセットするときには、ローター底部がドライブユニットの回転軸に強くぶつかることがありますので、注意深くセットしてください。スイングローターの場合は、底部のピンの向きを確認してセットしてください。
- e) 夏場はローター表面やチャンバー内壁が結露するので、遠心前にペーパータオルなどで必ず拭き取ってください。なお、チャンバー内を拭き取る場合、センサー類を破損しないように十分注意してください。冬場の運転は 15°C 以上の室温で行ってください。
- f) 遠心機チャンバーのフタはハンドル部を立てた状態でゆっくりと締めて下さい（右に倒した状態でしめると、ツメの部分が破損します）。
- g) 運転時にはローターの最大許容回転数を必ず確認してください（最大許容回転数の 8 割以下で使用することが望ましい）。なお、運転中のチャンバー内部の温度表示は、真空度が上がるとローター温度の表示に切り替わります。
- h) 使用後は遠心機のチャンバーのフタをしめてください。電源を落とす前にチャンバー内の排気はしないでください（真空状態ではオイルが逆流することがあります）。